



共同研究2018

研究紀要リーフレット 47集

研究テーマ

一人一人が未来の創り手となる
豊かな学びの創造



熊本県立教育センター

一人一人が未来の創り手

研究の内容について

変化が激しく予測が困難なこれからの時代では、一人一人が未来の創り手となって、豊かな未来（持続可能な社会や一人一人の豊かな人生）を実現していくことが必要になります。熊本県立教育センターでは、そのために必要な、児童生徒の豊かな未来につながる学びを「豊かな学び」として、研究を行っています。

「豊かな学び」のためにまず必要なのは、学校における児童生徒の学びの先にある、豊かな未来とのつながりをイメージすることです。例えば、

「今日の授業の内容は、社会生活の中でどのように役立つのだろうか。」

「この学校行事で高めたい児童生徒の力は、未来のどのような場面につながるのだろうか。」

という視点で、学校におけるすべての学びを見つめ直し、児童生徒の豊かな未来にどのような力（資質・能力）が必要なのか見通し、その育成のために学びをどのようにデザインすれば豊かになるのかを考え続けます。このようなプロセスで「豊かな学び」を実現することによって、学校における様々な学びが学校の中で閉じることなく、社会に開かれた学び、社会に開かれた学校づくりにつながっていくと考えられます。

本年度の研究は3年間の研究における2年目にあたります。新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「未来の創り手」に成長する児童生徒の姿をイメージし、「豊かな学び」の具体的な姿や「豊かな学び」を実現するための手法について研究を行います。

「豊かな学び」の実現のために…

① 学校における児童生徒の学びの先にある豊かな未来とのつながりをイメージする。

② 豊かな未来の実現のためにどのような資質・能力が必要なのか、見通す。



資質・能力の育成

③ 必要な資質・能力を育成する「豊かな学び」をデザインする。

④ 児童生徒の学びの姿や育成された資質・能力について振り返りながら、学びを改善していく。



となる豊かな学びの創造

研究へのアプローチ

新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力を次のように示しています。

- (1) 教科等の枠組みを踏まえて育成を目指す資質・能力

(2) 教科等横断的な視点に立った資質・能力

① 学習の基盤となる資質・能力

② 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

本研究では、(1)を教科等の資質・能力の育成チームで、(2)を教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成チームで、(1)や(2)の育成のための学校経営を学校経営チームで、それぞれの研究協力校や研究協力員との共同研究を通して明らかにしていきます。

また、テーマ研究に加えて、学習指導要領改訂のキーワードとなる内容について、教育現場の課題に応える課題研究も行っています。

研究の検証について

テーマ研究については、次の3つの問いに基づいて検証します。

- ①「豊かな学び」が実現できたか。

②「豊かな学び」を意識することで、児童生徒の学びがどのように変化するのか。

③「豊かな学び」を意識することで、児童生徒の資質・能力がどのように育成されるか。

①②については、「主体的・対話的で深い学び」の3つの視点を基に作成した「学びについてのアンケート」

(右図)を用いて検証を行います。

③については、各チームごとの成果と課題を踏まえて検証します。

視点	質問項目	回答			
		そう思わない	どちらかといえば そう思わない	どちらかといえば そう思う	そう思う
主体的な学び	1 あなたは、「教科等名」の学習に興味や関心を持って取り組んでいる。	1	2	3	4
	2 あなたは、「教科等名」の授業で学んだことが、自分の将来につながると考えている。	1	2	3	4
	3 あなたは、「教科等名」の学習で、どのように活動を行うのか、見通しを持って学習に取り組んでいる。	1	2	3	4
	4 あなたは、「教科等名」の授業の中で、課題に対して、粘り強く学習に取り組んでいる。	1	2	3	4
	5 あなたは、「教科等名」の学習で何を学んだのか、どのように学んだのかについて振り返っている。	1	2	3	4
	6 あなたは、「教科等名」の授業で学んだことを、その後の学習や生活の中で生かそうとしている。	1	2	3	4
対話的な学び	7 あなたは、「教科等名」の授業の中で、友達と話し合ったり、協力したりしながら学習に取り組んでいる。	1	2	3	4
	8 あなたは、「教科等名」の授業の中で、教師（あるいは、地域の方など）の話を参考にしながら学習に取り組んでいる。	1	2	3	4
	9 あなたは、「教科等名」の授業の中で、「先哲の考えを手がかりに」しながら学習に取り組んでいる。	1	2	3	4
	10 あなたは、「教科等名」の授業を通して、自分以外の考えに触れることで、新しい考えを持ったり考えをより確かにしたりすることができている。	1	2	3	4
深い学び	11 あなたは、「教科等名」の授業の中で、「各教科等の見方・考え方を働かせ」ながら学習に取り組んでいる。	1	2	3	4
	12 あなたは、「教科等名」の授業の中で、これまでの学習を生かして、学習内容をより深く理解している。	1	2	3	4
	13 あなたは、「教科等名」の授業の中で、自分や友達との考えのちがひを大切にして、自分の考えをよりよく理解している。	1	2	3	4
	14 あなたは、「教科等名」の授業の中で、課題を意識しながら、解決策を考えることができている。	1	2	3	4
	15 あなたは、「教科等名」の授業を通して、自分の思いや考えを生かしながら、新しい考えをもつ（アイデアを得る、作品を作る）ことができている。	1	2	3	4
教科横断的な資質・能力	16 あなたの、「設定した教科横断的な資質・能力」は高まっている。	1	2	3	4
	17 あなたの周りで、「設定した教科横断的な資質・能力に近づく姿」が高まっている。	1	2	3	4

学びについてのアンケート（児童生徒用）

学校経営

○そのためには、まず学校教育目標に込められたビジョンを全職員が共有し、それを踏まえたPDCAサイクルを確立した上で、学校におけるすべての学びを豊かなものにしていきます。

学校教育目標の実現につながる資質・能力を育む
カリキュラム・マネジメント

次年度に向けた教育課程，教育活動計画の改善の見通しを全職員で持ちます。

共感力		考働力	
キーワード	具体的実践内容	キーワード	具体的実践内容
学習形態	○ペア学習やグループ学習の設定 ・友達の考えの良しを向けさせるグループ学習の設定 ○ペア学習、グループ学習等の授業 ・友達同士での考え合いの場の設定 ・グループでのプレゼンテーション活動の設定 ・学んだことと表現し合う場の設定	学習規律	・授業の準備等、授業の進行の徹底 ・授業開始後の授業の課題 ・授業の課題 ・学習指導要領の徹底 ・(朝)休 ・(中)休 ・(下)休 ・(夕)休 ・(夜)休
学習支援	○児童同士の教え合い ・授業で悩んでいる子に対しての児童同士のアドバイス促進 ・学習課題が終わった児童による教え合い活動促進	課題設定	・各学年に合わせた課題設定 ・児童の意欲を高める課題設定 ・学習課題の長さ ・具体的な到達目標
交流活動	○友だちの良さを認め合う場の設定 ・友達の考えを説明する活動の設定 ・授業の振り返りや授業の振り返り(話し)の仕方を提示 ・互いの作品の良さを発表し認め合う場の設定	学習指導	・発問に対して、立場や理由を明らかにした意見交換
振り返り	○振り返りの場での視点の提示 ・内容/方法/「学習」	振り返り	・視点の明確にした振り返り

学校
教育目標
の実現

- ・教育活動評価
- ・授業評価

等

意識調査項目（経営アンケート）	10月	2月
○「育てたい力」を意識して取り組むことができましたか。		
○「付けたい力」を意識して取り組むことができましたか。		
○各部会で「小さなチームで軽快に」を意識して取り組むことができましたか。		
○報告は義務、連絡は気配り、相談は問題解決の思いで報連相を行えましたか。		
○校内研修や校務分掌、チーム（3部会、学年部等）で取り組むことで、資質向上につながりましたか。		
○1年後、数年後の自分のありたい姿をイメージして取り組むことができましたか。		
意識調査項目（教育活動の反省）	7月	12月
○思いやりのあるやさしい子（姿）に近づいたか。		

教科等横断的な
視点に立った
資質・能力の
育成



○新学習指導要領では、教科等の資質・能力だけでなく、「教科等横断的な視点に立った資質・能力」を育成する重要性についても述べられています。

○特に、教科等横断的な視点に立った資質・能力は、各教科等の資質・能力の育成を支えたり、諸課題に対処したりする働きだけでなく、学校教育目標を実現するための役割も持っていると考えられます。

○教科等横断的な視点に立った資質・能力を育成するためには、教科等の枠組みを超えた学習活動の共通実践や合科的な指導などの取組が有効です。

菊水中学校
の取組

学校教育目標の実現につながる資質・能力としての
「表現力」「思いやり」等を高めるための取組



学校教育目標の実現を目指して、全職員でワークショップを行い、「表現力」「思いやり」等の資質・能力を設定しました。各教科等の担当は、各教科等の資質・能力の育成を目指すだけでなく、「表現力」「思いやり」の育成につながる共通の学習活動を授業に取り入れ、実践を重ねました。また、生徒とも連携して、学校全体で資質・能力の育成に取り組みました。

生徒会が中心となって「表現力」「思いやり」についてさらに考え、「分かりやすく説明する力」「自分から質問する力」「周りを見て判断し、行動する力」として具体化しました。生徒集会を通して全校生徒で共有するとともに、研究授業においては、各クラスの代議員も授業を参観し、「学びの頑張りシート」を用いて、具体化した3つの力の視点からアドバイスを行っています。

熊本西高等学校
の取組

これからの社会で必要になる資質・能力としての
「論理的思考力」「表現力」を高めるための取組

教科等の枠組みを超えて「論理的思考力」「表現力」を高めるために、各教科等における論理的思考力育成のためのルーブリックを作成し、生徒と共有しました。

また、教科担当の専門性を生かした合科的な指導にもチャレンジし、教科の枠組みを超えた論理的思考力の育成を目指しました。



理科（地学）と数学科の合科的な指導を行いました。地震の単元で、地震の波の伝わり方について調べる際に、数学の教師が図形の性質を説明し、理解を深めた上で活動に入りました。互いの専門性を生かして、充実した学習活動を行っています。

教科等の 資質・能力の 育成

○各教科等の授業における学びが、その教科の本質を踏まえ、これまでの学びや現実的な文脈と結び付くことで、深い学びになることが必要です。

○本年度は、各教科等の授業における学びが、児童生徒の豊かな未来にどのようにつながっているのかという視点や、授業改善の視点である「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた上で、次の2つの視点を設定して「豊かな学び」の実現を目指しました。

研究の視点①

「見方・考え方」に着目した問いの工夫

見方・考え方は「教科の本質」であると同時に「未来につながる」ものでもあります。問いの工夫によって児童生徒が見方・考え方を働かせることで、それぞれの教科領域の学力を高めるだけでなく、「豊かな学び」にすることができます。

小学校4年生（図画工作科）：「山都の景色『いいね！』ポイントを2つ以上さがしてみよう。」という問いで、造形的な見方・考え方を働かせながら気づきを出し合い、他者との対話から自らの考えを深め、鑑賞する力を高めています。



研究の視点②

学びを実感する振り返りの工夫



「問い」の工夫によって、見方・考え方が働く学びが実現できたとしても、児童生徒が自身の学びの価値を自覚することができなければ、学びを本当に豊かなものにすることはできません。そのために、学びを自覚化させ、価値付けていく振り返りの工夫が重要になります。

中学校3年生（国語科）：「合意形成のために必要な話合いの進め方」について繰り返し振り返ることで、様々な話合いの進め方の特徴を実感させ、話合いの進め方を意識しながら合意を形成する力を高めています。

課題研究

○テーマ研究に加えて、学習指導要領改訂のキーワードとなる内容について、教育現場の課題に応える研究を行いました。

情報教育

2020年度より、プログラミング教育が必修化されます。しかし、授業実践が少なく、「プログラミング教育は難しそう」「教科でどのように取り組めばいいの」などの声が聞かれます。

今回、算数科、音楽科、家庭科、総合的な学習の時間におけるプログラミング教育の実践を行い、実践事例集として整理しました。実践事例集を公開し、授業展開案・ワークシート等を各学校の実態に応じて活用していただくことで、プログラミング教育の推進を目指しました。

県立教育センター プログラミング教育 実践事例集



第1時の展開		
時間	実態把握	指導上の留意点
導入 (5分)	1 身近なところで使われているプログラミングを調べる。	・動機づけを促すこと。授業がプログラミングを学習した経験をもつ児童で済ませる。 ・プログラムを覚えていく。動機づけを促す。 ・身近なプログラミングを調べる。
展開 (25分)	2 プログラムの簡単な仕組みについて知る。 ・数値（シーケンス） ・変数（ループ） ・分岐（ブランチ）	・「数値」「変数」「分岐」という言葉は言葉にとってなじみがない。言葉であるため、具体的な例を挙げて説明する。 ・「変数」：変数の書き方 ・「分岐」：分岐の書き方 ・「数値」：数値の書き方 ・「変数」：変数の書き方 ・「分岐」：分岐の書き方
	3 「数値」の考えを使ったプログラムを作る。 (1) 「数値」に書かれたプログラムを調べる。 (2) 「数値」の考えを使ってプログラムを作る。	・数値の考えを調べるだけでなく、数値の考えを調べるだけでなく、数値の考えを調べる。 ・「数値」の考えを調べるだけでなく、数値の考えを調べる。 ・「数値」の考えを調べるだけでなく、数値の考えを調べる。
	4 作ったプログラムを調べる。 (1) 数値の考えを調べる。 (2) 変数の考えを調べる。 (3) 分岐の考えを調べる。	・数値の考えを調べるだけでなく、数値の考えを調べる。 ・変数の考えを調べるだけでなく、変数の考えを調べる。 ・分岐の考えを調べるだけでなく、分岐の考えを調べる。
	5 まとめ	・学習内容に関するまとめや「数値の考え」に関するまとめ。

特別支援教育

今日、特別支援教育において「自立活動」の重要性が高まっていますが、どのように自立活動の指導を進めればよいのか、具体的なイメージが持ちにくいという声も聞かれます。

今年度の課題研究では、研究協力員と協力して、自立活動の指導の具体的な実践場面について資料を作成しました。その他実践レポートを加えた合計10本の動画やレポートを「自立活動の実践事例集」として作成し、特別支援学級担任等の専門性の向上のために、校内研修や自己研修等において活用できるように熊本県立教育センターのホームページに掲載しました。

実践事例動画の例

実態把握と目標設定のプロセスについての動画

指導計画作成・実践・評価のプロセスについての動画

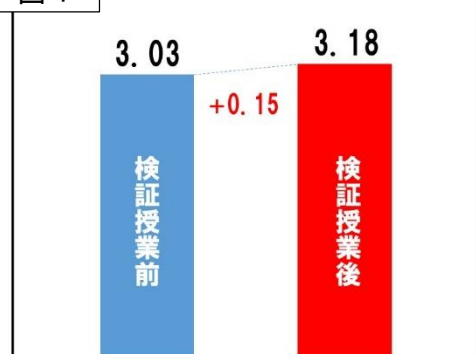
研究のまとめ

本年度の研究について、次の3つの問いに基づいて検証しました。

- ① 「豊かな学び」が実現できたか。
- ② 「豊かな学び」を意識することで、児童生徒の学びがどのように変化したか。
- ③ 「豊かな学び」を意識することで、児童生徒の資質・能力がどのように育成されたか。

①については、児童生徒アンケートの項目2「授業で学んだことが、自分の将来につながると考えている」に基づいて検証しました。全体では+0.15ポイントとわずかな伸びに留まりました（図1）。未来とのつながりがイメージしやすい学習内容の授業では大きな伸びが見られたことから、学習内容と未来とのつながりを児童生徒に実感させるための工夫が大切であることが分かりました。教科等の特性を踏まえて、どのような工夫が必要か、今後、さらに検証していきたいと思います。

図1



（児童生徒は）各教科等の授業で学んだことが、自分の将来につながると考えている。

②について、最も大きな変化が見られたのは児童生徒アンケートの項目11「各教科等の授業の中で、見方・考え方を働かせながら学習に取り組んでいる」でした（図2）。各教科等の見方・考え方を意識した問いの工夫や、見方・考え方の観点に基づいた振り返りシートの工夫等が有効に働いた結果であると考えられます。

図2



（児童生徒は）各教科等の授業の中で、見方・考え方を働かせながら、学習に取り組んでいる。

一方で、「深い学び」の観点に関する項目（項目11～15）については、「伸びた」と感じている教師と児童生徒との感じ方の違いが大きかったことが分かりました。何を学んだのかを児童生徒に自覚させるための振り返りの工夫について、今後、さらに検証していきたいと思います。

③については、「資質・能力の育成を通じて学校教育目標の実現に近づいていく」という意識を持って、学年や教科等の枠を超えて取り組んだり、教師と生徒が目標を共有して取り組んだりすることによって、学校における様々な活動を「学校教育目標の実現」というひとつの方向につなげることができるようになりました。

各教科の授業においても、「試行錯誤しながらコミュニケーションをとろうとする姿が見られた」「学びがつながるようになり主体的な態度が見られるようになった」等の声が聞かれるようになりました。

（※ 詳しくは本センターホームページに掲載されているそれぞれの「研究のまとめ」を御覧ください。）

研究全体を通して、次のことが見えてきました。

- ① 豊かな学びを実現するためには、各教科等の学びが児童生徒の未来にどのようにつながっているのか、まず、教師がイメージすることが大切であること。
- ② 児童生徒の学びの深まりを、児童生徒に自覚させたり、学びを次の活動につなげたりしていけるような、振り返りの工夫が必要であること。
- ③ 豊かな学びの実現に向けた取組を学校全体で行うことで、より効果的、かつ効率的に必要な資質・能力を高めていくことができること。

このような点を踏まえながら、次年度の研究につなげていきたいと思います。